

[参考事項]

新技術名：ニホンナシを加害するキクイムシ類の発生時期（平成11～15年）

研究機関名 果樹試験場 天王分場
担 当 者 高橋 功・大隅専一・他1名

[要約]

ニホンナシを加害するキクイムシ類はマダラコールによる誘引が可能である。主要加害種のハンノキキクイムシ雌成虫とサクセスキクイムシ雌成虫の発生盛期は、前者が4月4半旬～5月5半旬で、後者は4月2半旬～5月5半旬で、この時期は重要な防除時期である。

[ねらい]

近年、秋田県のニホンナシ栽培園においてキクイムシ類の被害が増加し、急激な樹勢の低下や枯死する樹が見られている。そこで、主要な加害種であるハンノキキクイムシとサクセスキクイムシの発生時期を明らかにし、防除対策の参考とする。

[技術の内容・特徴]

- 1．ニホンナシを加害する主なキクイムシ類はマツノマダラカミキリ用誘引剤の「マダラコール（ピネン油剤、エタノール）」による誘引が可能である。
- 2．ハンノキキクイムシの雌成虫は、マダラコールに4月2半旬～9月3半旬まで誘引され、その盛期は4月4半旬～5月5半旬である（図1）。
- 3．サクセスキクイムシの雌成虫は、マダラコールに4月2半旬～9月6半旬まで誘引され、その盛期は4月2半旬～5月5半旬である（図2）。また、発生盛期はハンノキキクイムシに比較して年次差が大きい傾向がある。
- 4．トドマツオオキクイムシの雌成虫は、マダラコールに4月3半旬～8月4半旬まで誘引され、その盛期は4月5半旬～5月5半旬である（図3）。
- 5．誘引数はハンノキキクイムシとサクセスキクイムシが多く、トドマツオオキクイムシは前2種に比較して少なく、ほ場における加害状況に一致する。
- 6．主要加害種の発生盛期は、ほ場における越冬成虫による加害時期と一致しており、キクイムシ類に対する防除時期は4月上旬から5月下旬が重要である。

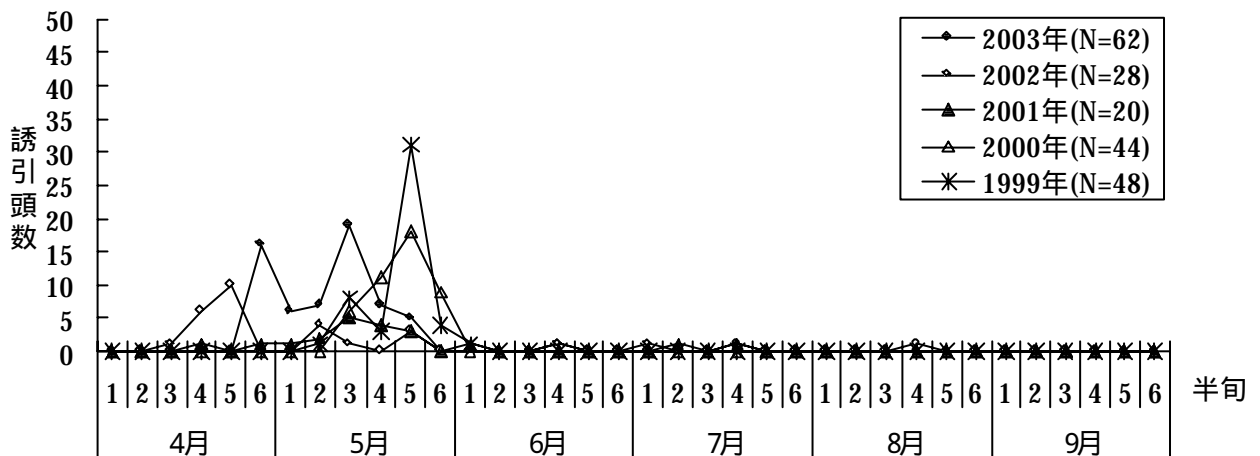
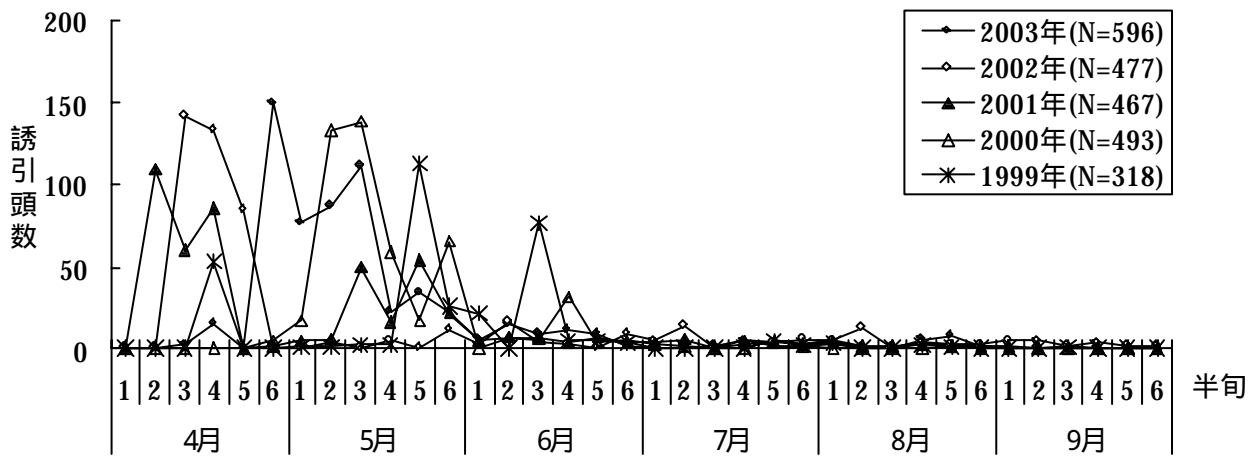
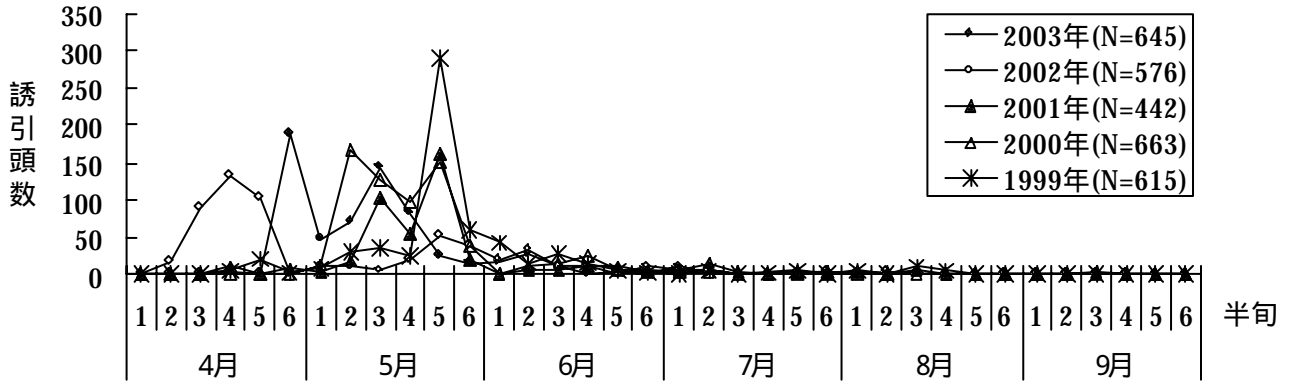
[普及対象範囲]

全県のニホンナシ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

- 1．有効な登録薬剤がないため、早期に防除剤の選抜が必要である。

[具体的データ]



[発表文献等]

北日本病虫害研究会報 52 : 218-221